

第5回平・上平地域義務教育学校設置協議会会議録（要点記録）

【日時】令和6年11月28日（木） 開会：午後7時01分 閉会：午後8時37分

【場所】南砺市立上平小学校 1階多目的ホール

【出席委員】成瀬 喜則 委員長 松本 謙一 副委員長 荒井 重和 委員
井渕 信雄 委員 櫻井 良成 委員 中島 拓哉 委員
中村 里奈 委員 野村 由佳里 委員 長谷 桂子 委員
真草嶺 信義 委員 道端 克彦 委員 山田 由紀子 委員
北野 恵美 （代理）

【欠席委員】浦田 謙太郎 委員 北野 真史 委員

【事務局員】教育部長 氏家 智伸 教育総務課長 上野 容男
教育総務課副参事 山本 佳和 教育総務課主幹 山田 浩司
南砺市教育センター長 竹田 千春 総合政策部 こども課長 溝口 早苗
平市民センター統括 中村 亨 上平市民センター 統括 平 昌広

1 委員長あいさつ

委員長 スケジュールを見返すと、今日の会議で多くのことを決めておかないと次へ進めないと感じています。各部会におかれましては、多くの方針や内容を決めていかなければいけないので大変だと思いますが、引き続きご協力をお願いします。

2 報告事項

（1）第4回協議会（令和6年10月2日）議事録について

事務局 【資料1の説明】

委員 修正の意見なし。

3 協議事項

（1）各部会から提案及び進捗状況と今後の見通しについて

①地域・PTA部会から

委員B これまでの経緯として、8月23日に校名アンケートを配布しました。9月20日に締め切り157点集まりました。9月26日の部会で11点に絞りました。11月21日の部会で更に絞り、資料の通り決定しています。細部につきましては、委員Eさんに説明していただきます。

委員E 校名案の11点を前と後ろのキーワードに分けて絞りました。後ろのキーワードについては、アンケート結果で多かった学園60票、学舎50票の2点とすることで総意を得ました。次に前のキーワードについて、委員12名の挙手にて得票数の多い3点に絞りました。五箇山7票、五箇山みどり3票、五箇山さみどり3票、五箇山合掌2票、平・上平4票、五箇山青葉2票、五箇山探究1票、五箇山未来創造2票となり、まずは得票数の多い、五箇山と平・上平に絞り込みました。その後同数だった、五箇山みどりと五箇山さみどりで挙手をした結果、五箇山さみどりが8票となったため、五箇山さみどりを候補に挙げています。前と後ろのキーワードをまとめると、以下の6通りの候補を最終候補案としました。この後、どのようにして1点に絞るかということは、何も決まっていません。

委員B 以上の6案となりました。どの様に決めればいいのかということを部会では話ができませんでした。ここで決定したいと思います。

委員長 前回の時に、前と後ろを切り分けて考えるということ。部会では一つに決めないで、最終的にはこの場で決めたい。ということを確認させていただいたと思います。前の方では、五箇山、五箇山さみどり、平・上平、後ろの方では、学園、学舎が部会では選ばれました。これ以外にこの協議会の中で、こういう考え方もあるのではないか、ということがありましたら発言をお願いします。

委員長 「さみどり」には、どういう背景があって、どういう意味をもつのでしょうか。

委員B 「さみどり」は157点の校名アンケートの中で、1件ありまして、五箇山さみどり小中学校という名前でした。

委員K かつて上平中学校の校歌の2番に、「山にもみじにさみどり」という歌詞がありました。「さみどり」という言葉を調べたら、季節が早いうちの緑のことで、この辺の春の祭りぐらいになると、若い緑が燃え上がる様な山の雰囲気が連想されるので、これから育っていく子どもたちのスタートの一語としていいのかな、という思いです。

委員長 分かりました。そういう風に聞くと風景が見えてくる感じがします。

平・上平ですが、このままだと中ポツが要ります。中ポツが入ったような学校名は、個人的にはピンときません。中ポツを取ると、この地区以外の人を読めない可能性があります。「へいじょうへい」とか。県外の人には「たいらかみたいら」とは読まない可能性があるのではと感じました。

その一方で、部会から上がってきたこともあります。教育委員会の方針もあるだろうと思っています。100%皆さんが納得するかどうかは分かりませんが、話し合いをしながら決めたいと思います。

それでは、前の方を先に決めたいと思います。

委員長 「さみどり」はいいなと思ったのですが。五箇山さみどり〇〇、学園学舎となると、9文字になりますが、どうですか。

委員A 個人的な意見ですが、校歌によくある〇〇っ子と付けた時に、五箇山っ子と付けた場合に、「さみどり」は学校名には入っているけど、あまり使い勝手がよくないというか、ちょっと浮いてしまう。例えば「さみどり〇〇」だけだったら、その「さみどり」は意味をなすけれども、南砺市五箇山さみどり〇〇になると、「さみどり」は使いづらく複雑にしているだけで、どこで使うところが出てくるのかが分からない。今の候補の中で、五箇山なしで「さみどり」であれば使えますが。

後からよく考えた時に、つばき学舎を参考にした時に、五箇山と「さみどり」を一緒にした学校名は少しどうかと思う。

委員長 〇〇っ子と言った時に、五箇山さみどりっ子とは言わないですね。五箇山っ子か、さみどりっ子と言うかもしれませんね。この上に、南砺市立が付きます。南砺市立五箇山さみどり〇〇となります。平・上平の方はどうでしょうか。

委員E たぶん名前を残したいという思いから、そういう意見があがってきたんだと思います。実際どちらかが無くなるのか、全く無くなるのかという校名になると思います。

副委員長 どちらかを残すことは無いですね。

委員K 若い20代の方と話す機会があり、校名については平とか上平という名前は大事にした雰囲気でした。このアンケートにはあまり関わっていない若者ですが。今はここから離れている若者たちは、割と愛着があるような感じを受けます。

委員L 先程の話の流れでいくと、平・上平と付けたら、〇〇っ子が何っ子になるのかっていう話になるかなと思うので、そこはまた難しい問題になってくると思います。

委員長 つばき学舎の時も「つばき」を漢字にするのか、ひらがなにするのか、「なんと」を漢字にするのか、ひらがなにするのかで議論があり、最終的には「南砺」が漢字で、「つばき」がひらがなになりました。そのような選択肢もあるかもしれません。

副委員長 五箇山は世界遺産五箇山で、世界のメジャーかなと、日本中どこでも分かるかなと思う。

委員B 五箇山という地名はないですが、五箇山という言葉はヨーロッパやアメリカ等の海外の人にも、金沢や東京や大阪と同じように名の通った名前です。それと、これから校歌とかを考えていきますが、五箇山という言葉はすんなりとあまり手を加えなくても入っていきますので、五箇山という言葉がいいという感じがします。

委員長 「さみどり」が入ると長いとか、平・上平は中ポツがあるとか、個人的な意見を言ってしまったのですが、あまりそれにこだわらずにご意見ください。

委員Bも言われましたように、五箇山という言葉は世界的にも知れ渡っています。海外から富山県に来た時に有名なのは、立山と五箇山です。

雰囲気を見ていると、五箇山が皆さんの意見としては多いかなと思ったのですが、それでよろしいでしょうか。

委員 異議なし。

委員長 それでは、前の方は五箇山ということで決めさせていただいていいですか。五箇山は漢字ですね。ひらがなで「ごかやま」と校名を作ることは無いですね。

委員 無いです。

委員長 低学年の子どもも書くんですか。

副委員長 自分の学校名なので、保育園から教えてもらいたいくらいです。これを機会に覚えてほしいです。

委員長 では、五箇山は漢字の3文字でよろしいでしょうか。

委員 異議なし。

委員長 次に後ろの方ですが、学園、学舎、これは色々と意見はあると思いますが、ご意見いただければと思います。ちなみに南砺市は、南砺つばきも、利賀も学舎という形になります。一つの考え方としては、その統一感をどうするかというところだと思います。

委員長 では、順を追って決めていただければと思います。

事務局 先程、市の考えはというお話が出たので、市としての考えをお話しさせていただきます。市で初めての義務教育学校である、つばき学舎が開校した時に、伝統を重んじるイメージが感じられ、かつ、他の市や県の義務教育学校であまり使われていないという意味では斬新さも感じられる。ということで全会一致で学舎と決められました。そして、利賀の校名を決める時には、同じ様に南砺市の義務教育学校として学舎に統一することで対外的にも分かりやすいという説明をさせていただいたところ、利賀の場合も特に異論なく学舎となりました。利賀も学舎とされたことで、対外的にも相当馴染んできているという思いもあります。教育委員会としましては、同様に学舎としていただければ、統一感も出てありがたいと思っています。

委員長 県内では氷見も高岡も義務教育学校は1校ずつで、南砺市は3校目ということで、他市に比べると数が多いということも1つあるのかなと思います。そこで今、提案がありましたように、統一感を図っていただければというような意見が出ております。

委員E 統一感もそうなんです、一番最初につばき学舎ができた時に、一番最初だったからこそ斬新さというところが評価されて学舎となったんだと思います。例えばそれが学園だったとしたら、それもとぶん学園で統一という考え方になったんだと推測できます。別に学舎にこだわることもないし、学園にこだわる必要もない。統一感というところは私は別に

考える必要はないんじゃないかと思います。白川郷学園が隣にありますけど、それと比べた時に、五箇山というところは結構ブランド感がある名前だということでは確かかなところだと思いますが、白川郷五箇山という風な世界のところで見ていくと、例えば白川郷学園、五箇山学園という括りでも成り立つんじゃないかなと思います。そういう世界遺産という中で統一感というところもあり得るんじゃないかと思います。

委員K 今の発言に同感して、市内で統一するというメリットもあるのかもしれませんが、白川郷が先にできたからなんですけど、白川郷が学園で、五箇山も学園だと丁度並ぶ感じで、両方とも世界遺産の区域なので、一緒でもいいかなというのが一つと、もう一つはアンケートを取った時に、小中学生で多かったのが学園の方なんです。子どもたちに馴染みのあるのは学園の方なのかなと思います。

委員F 同意見になるのですが、世界遺産に登録されてから五箇山と白川郷とは力を合わせて色々な行事もやっていますし、そういうところでそちらに合わせる形になると思うのですが、リンクした考えで白川郷ともこれからもお付き合いしていかなければいけないと思うので、学園の方が馴染みやすいのかなと思います。

委員長 南砺市内ではなくて、白川との統一感といいますか、連携という意味で学園というのが相応しいのではないかというご意見だったと思います。

副委員長 私は学舎でいきたいという思いはあります。白川はどちらかというと合掌造りで観光を重視している気がします。南砺の菅沼と相倉はそこに暮らして歴史を重んじる合掌集落として残っているので、合わせる必要は無く、むしろ歴史と伝統を重んずる学舎の方が利賀も含めピンとくる思いがあります。

委員E 先程、斬新さということを聞いた中で考えてみると、例えば五箇山学園があったとしたら、それも斬新なんじゃないかと思います。南砺市の中でもここだけが学舎となると、そういう考え方も斬新という言い方ができるんじゃないかと思いました。

先程言った小中学生の意見が多かったというところは、汲んだ方がやっぱりしっくりくるような気がします。

委員長 教育委員会の考えでは、学舎というのは他にもあり、義務教育学校以外にも学舎はあるということも含めて、学舎というのが最初のつばきできて、次に利賀もきてという形で決まっていたのではという気はします。

委員K 今後できてくる義務教育学校は全て学舎に統一していくという方針でいかれるのですか。それともその都度、同様の議論をされるのですか。

副委員長 できれば全て学舎でそろえたいと教育委員会では思っています。そうしないと、なぜ平・上平だけ学舎にしないんだと言われた時に、同じ義務教育学校なのに説明がなかなかつかないという思いもあります。南砺市内で学舎といえば全て義務教育学校だということですが、市民にとっても分かりやすいのではないかと考えています。また、歴史とかを大事にしているという雰囲気はあると思っています。もう一つは市内には、わらび学園という知的にいろいろなことがあるなど、児童の発達支援を行っている学校があります。井口の時にはそういう学校と区別をするという意味もあり、学舎になったと記憶しています。

委員E それって南砺市の子どもたちのための学校ですか。

副委員長 もちろんそうです。

委員E そうしたら、地域の人にアンケートを取る意味が無いと思います。

副委員長 意味はあります。先程の説明で60対50と言われました。もしもこれが10対100なら議論の余地は無いと思いました。学舎が100で学舎が10だったら、こんな提案はできないと思っています。

委員F 小学生、中学生の意見は結構大きいところがあると思います。現役世代が学舎がいいと

言っている人が多いので、そこで馴染みをもって自分たちの学校に通ってくれるかなと思います。

委員E 例えばここで、真っ二つに意見が割れているという状況であれば、小中学生に判断を委ねるっていうのも一つかなと思います。

委員長 それは無いと思います。小中学生に委ねては可哀そうです。それは避けましょう。

委員A 学園の理由が無いと副委員長さんは言われましたが、一つあるのは五箇山って一番最初に利賀も五箇山じゃないかという話があったじゃないですか。今、つばき学舎は学舎、利賀も学舎ということは、一つの地域にあるのが学舎となっています。五箇山は平、上平のものかという、どうかという感じがどうしても出てしまうから、いくら利賀さんはいいと言われても、利賀も入って五箇山だから、そこで学園としたらよいのでは。五箇山っていう名前を付けるのであれば学園で、なぜ学園と付けたかという、五箇山という名前の性質上、学舎っていうのは地域に置いたって感じで、区切が付いてしまう感じ、学園だともう少し範囲がぼやけるという感じがします。

委員長 これは何十年も残っていく話なので、覚悟して決めたいところなんです。すみません、後の議論を先にさせてもらってもよろしいでしょうか。これだけでいくと、9時になっても終わらないかもしれないので。

他の方を先にやらせてください。その後、もう一回戻ります。今決まったのは、五箇山というのは決定でよろしいですね。

副委員長 みんなの総意で五箇山になったということですね。

委員長 では、次に教育課程部会からお願いします。

②教育課程検討部会から

委員L 校訓と学校教育目標の3次案について、参考資料1を使いながら説明させていただきます。

委員L 『平・上平地域義務教育学校の構想④（校訓・学校教育目標3次案）』の紙面を順に説明。

委員L 学校教育目標について、候補A、候補Bを検討した結果、部会としては候補Aを推したいです。

委員L 『平・上平地域義務教育学校の構想⑤（特色についての細案と担当）（案）』の紙面を順に説明。

委員L 11月21日の教育課程検討部会の時に、特色についてもう一度練り直しをしました。前は特色2にユネスコスクールの学習を個別に取り出していました。しかし、ユネスコスクールの学習をする際に、五箇山にぴったりの学習は「ふるさと学習」だろうということから、特色1の中に含みました。また、本当にこの特色が学校運営上可能なのかということ、担当者がこれから細案を立て、検討していきたいと思います。

また、ここに入れていなかったのですが、学年区分についても教育課程検討部会で話し合い、1年から4年までで前期、特色のある5、6年で中期、7年から9年で後期というのを推したいと思います。

委員長 学年区分については、4－2－3ということですね。

委員L はい。

委員L 候補Aと候補Bのどちらかを決めたいと思います。候補Aの校訓のかつこの中はあるのですか。

委員L 子どもに提示するものには付けません。

委員長 心豊かに、よく考え、鍛え合う。3つの言葉になるのですね。

委員L はい。

委員長 候補Bの、共生、自学、剛健はどうなんですか。

委員L これは、小学生にあたる1年から6年と、中学生にあたる7年から9年の子どもたち用に2つの言葉が並べてあるのですが、部会の方で検討した時には、2つ言葉があることで目指す姿がぶれるのではないかという意見が出たので、候補に挙げましたが推しではありません。

委員長 分かりました。部会としては候補Aを採択したいというお話かと思います。何かご意見はありますか。

委員D 子供の「ども」は漢字なんですか。

副委員長 私もそこだけ最後に検討していただこうと思いました。こどもの権利条例のこともあるので。

事務局 こどもの権利条例は、全部ひらがなです。

副委員長 なぜそうしたかという検討した事実と、説明がつくようにしておいてほしい。

委員L 分かりました。

委員長 「ふるさとを愛し」と、「未来を切り拓く子供の育成」は並列で、志高くは、未来を切り拓くにかかっているのですか。同レベルの言葉なら、ふるさとを愛して、志が高いとか。という言い方になるような気がします。

副委員長 これでいったら、志高くは未来を切り拓く子供にかかっているのではないですか。

委員長 ふるさとを愛しで一つの文章になっていて、英語で言えばa n dですね。

副委員長 志高く、未来を切り拓く子供だと思う。

委員長 それで、よければいいですし、3つの言葉が同列に並んでいるのですか。

副委員長 同列ではないでしょう。志高くは後ろにだけかかっている言葉だと思う。

委員L それぞれの委員によって考えが違ふと思います。

副委員長 素直に見たら後ろにかかっているように見える。

委員H 普通はそのように捉えますが、ふるさとを愛することも大事にしてほしいし、志高くあることも大事にしてほしいし、未来を切り拓いていく子供たちであって欲しいという、それぞれが単独な用途でも活用できると思います。

副委員長 志高くと、未来を切り拓くは、意味が似ていないですか。

委員H 志高くとは、どんな場面でも使えるような言葉です。

委員長 志高くと、未来の間のスペースが要らないように思います。意味的にですが。

副委員長 両方にかかるなら、先にもってくるべきではないですか。

委員K 後にもってくる方法もあるのでは。

副委員長 ふるさとを愛し 未来を切り拓く 志高い子供。にすれば両方にかかると思う。このままでは、後ろにだけかかっているように見える。

委員L その部分はもう一度、相談させてください。それぞれ部員も色々な思いがあると思うので。

副委員長 候補Aを起点にして、今後修正してもらおうということでいいですか。

委員L 参考資料の案1から案6までに、志高くを入れている部員がたくさんいるのですが、それぞれ考えが少しずつ違うような気がしますので。説明ができるようにして、修正したものを出します。

委員長 特色について検討しなくてはいけない部分はどこですか。

委員L 前回出した特色と変更したところを出しただけで、本当にできるのかは細案を立ててみないと分からないので、お知らせだけという形です。

委員長 分かりました。次回にはこの細案が出てくるということでもいいですか。

委員L 2月と5月に分けて出します。

委員長 では、次に事務部会からお願いします。

③事務部会から

委員H 事務部会からは今回はありません。

委員長 各部会からの報告が終わりましたので、もう一度戻ります。

みなさんをお願いしたいのは、自分の意見だけに固執せずに、いろんな観点から考えていただきたいです。例えば、市教委の方針で学舎でいきます。ここだけが学園ということもあり得るということも一つ考えてください。一方で、どこを統一感をもたせるのかという話に出てきたと思われるので、白川と統一感をもたせたいのか、南砺市の中で統一感をもたせたいのか。ということをよく考えてもらいたいです。自分の意見に固執して、後でしまったということにならないようにしてください。

委員B 私はここでこんなに時間がかかるとは思っていませんでした。前々回の議事録を探していたら、教育長さんが、できれば学舎という名前になったら、と発言しておられるんです。だからあの段階で下は学舎だなど、上さえ決めればいいのではないかなと思って、実は部会をしていました。下は学舎だと思って進めていたんですけど、こんなに議論されるとは全く思っていなかったです。

委員E たぶんそれは、教育長の考えで発言されたことだと思いますので、一個人の意見であって、そんなことを言われたら僕らがいる意味が無いわけじゃないですか。市の考え方を押し進めるのなら、みんながいる意味がないので。

副委員長 それだから、アンケートを取ってもらったことに意味があるんです。先程も言ったように、大差で学園だったら引っ込めるしかないと思ったけれど、60対50だということだったら、学舎にしてほしいというのが提案です。

委員E 数字の問題では無いと思います。

委員長 ちょっとよろしいですか。特定の方々の発言が多いので、他の方々の意見も聞かないと。発言されていない方、いかがでしょうか。

委員L 小学校の関係ですが、校名アンケートを見た時に子どもたちにとって、学園、学舎、小中学校、義務教育学校とあった時に、自分の知っているのは学園しかないんです。だから学園を選ぶんです。義務教育学校は、この漢字はなんて読むのから始まりましたし、小中学校というのも分かるけどという感じで、学舎についてもこれはなんて読むのから始まります。先程、学舎についての意味も聞きましたし、学園にも意味合いがあるだろうし、子どもに説明して選ばせるのであれば意味があるんですけど、この間のアンケートで多かったからと言われても、子どももあまり知識が無い中で選んでいるので、ちょっと困るのかなという気がします。

委員D 同意見で、キメツ学園とか漫画に学園があるんです。例えば小学生でも中学生でもそうかもしれませんが、一人が学園がいいねって言ったら、あっ学園いいねっていうノリも結構あって、一人が言ったから私もというのがあるので、一概に人数で決めるのはよくないかなと思います。

委員長 そういう意味でも先程、最終的には子どもたちに決めてほしいと言うような話もありましたが、それはやめておこうと、それは違うと思います。

委員D 怖いことになると思います。

委員H 同様なんですけど、実は大笠山学園と書いた中学生が6人いるんですけど、大笠山学園と書いた生徒の周りにいた生徒がみんな大笠山学園と書いたんです。大笠山ってどこの山かって、知っている子と知らない子もいるかもしれません。桂湖から見える山ですが。と言う

実態もありました。

委員J 数字とかいろいろとありますが、イメージとして学園の方が柔らかい感じが受けるので、いいかなという気はしました。

委員I 個人的な思いですが、学園となったらなんとなく私立という感じがして、学舎だったら公立というイメージがあります。

委員G 南砺市で学園と聞くと、仕事柄かもしれませんが、わらび学園のイメージがあって、義務教育学校なので、ここは南砺市の公立の学校なので、学舎がいいのかなって思いはあります。

委員長 学校関係者の方とか、行政サイドの方は、学園は私立とか他の学園というのがいろいろあるので、そういう面で区別をつけたいという考え。それと南砺市で統一したいという考えかなと思います。一方でPTAの方々とかは、学園に馴染みがあるからですかね。

委員A 学園にこだわるわけではなく、今教育長さんや皆さんが話していることが学舎となった理由となれば当然学舎で問題ないし、学園と言われている方の意見も分かる。その中で合理性として学舎となれば、この議論の中で決められたことが意味のあることで、何も考えないですって決まっていくのが問題で、むしろ私たちも他のところに行った時に、なぜ学舎になったんですかと話になるので、この議論の中で決めてもらえばいいです。

個人個人の思いはあるけれど、ちゃんと説明ができるような理由でこうなりました。と言えればよくて、確認が取れれば私はいいと思います。

委員長 分かりました。ここで決めたことが何十年も生き続けるので、そういうこともふまえて私としては是非考えてほしいです。

委員E アンケート一覧表の理由を見てみると、小学生中学生で学園の方が楽しそうという意見がいくつかあります。そういう意味をふまえると、小学校も中学校も含めて不登校児童生徒が増えている中で、学校が楽しくない、行きたくないという児童生徒が多い中で、例えば名前から楽しそうだから行って見ようかな、新しい名前になったから行ってみようかなと、そういうところからきっかけを作って解消していける方向になってくれたらいいなという思いも考えると、新しい名前もありなんじゃないかと思います。

委員K 学園、学舎いずれになっても納得しますが、今の議論については、この地域だけの議論ではないと思います。ですから、南砺市の方で義務教育学校にするなら学舎にするんだと方針を出された方がいいのではないですか。例えば、今回学舎になるのであれば、今後つくる義務教育学校は全て学舎にするんだということであれば、分かりやすいのかなという気がします。

委員長 今、委員Kが言われたことも非常に大事だと思います。よく知事が言われている「こども真ん中」という言い方がありますが、子どものための学校だという観点で考えているすごくよく分かると思います。その一方で、名前で決まるかなとも思うのですが、子どもがこの学校へ行きたい、行きたくないというのは、違う要素のほうが大きいのではないかという気も個人的にはします。しかし、思いはよく分かります。それから、委員Kが言われた、市としての方針、その方針がどこまで強く出してもらえるかだと思います。100%そういう方向で必ずいくということは、教育長もいつまでも教育長をしているわけではないと思うので、でも市がそういう方針だということは、部長や教育長から聞いていると思えるのですが、ということですよ委員Kが言われたことは。

委員K そうですね。学園と付ける場合と、学舎と付ける場合では、上の名前のイメージも変わってくると思います。ですから、アンケートを取る段階でそこは重要な気がします。

委員長 分けなかったほうがよかったですか。

副委員長 言われることも分かります。でも先ほど言ったように、アンケートを取って10対

100だったら市の方針ですとは言えないと思っていました。子どもから見たら学舎という言葉はほとんど知らないし、生活や漫画にたくさん出てくるのは学園だし、それで、はっきりとは出せなかったが、先ほど委員Bが言われたように、市の方針としてはできればそうしたいということで、以前の協議会でお願いしました。議会を通すときにも、なんでここだけ学舎じゃないんだと必ず言われると思う。きちんと説明がつくのは学舎かなという思いで、今後も進めたいと教育委員会では思っているのは事実です。

委員E それって議会のためですか。

副委員長 議会のためではないですが、説明は求められます。ここでもどっちになってもいいが、その議論の経過を説明しなさいというのと一緒だと思う。

委員E 学園、学舎のアンケートを取るときに、学園がイメージしやすいから子どもが付けたと言っておられた方がおられますけど、そういう意味も含めて学園の方が子どもたちにとっては、学校って意味のイメージがしやすいのかなと思うので、学園の方が子どもたちにはすっーと入ってくる名前なのかなと思います。

委員長 子どもにとっては学舎というのは、初耳かもしれませんね。委員Eがおっしゃられた通りです。二つに割れましたが、どういう判断に立つかですね。

委員長 仕切り直しますか。

仕切り直して決まりますかね。多数決はあまりとりたくないんです、正直言って。それを子どもたちに任せて聞くというのは、やはりある程度皆さん納得してというか、やむを得ないなという感じになると思うのですが、どちらにしても。委員Aが言われたように議論するということが大事で、その議論した中で、こういうふうに決めました。その過程が大事なんだ。と非常に大事な意見を言われたと思います。委員Dの意見は何でしたか。

委員D どっちでもいいです。数だけでは決めないほうがいいと言いました。学園は馴染みはありますが。

委員長 委員Eが言われたように、これは議会のためにやっているのではないんですが、これを決めるときは、当然そういうことも現実問題としてはあります。議会でだめと言われることはあるのですか。

副委員長 条例なので、議決案件です。

委員長 議決案は校名だけですか。

事務局 校名と、義務教育学校になることも議決案件です。

委員長 義務教育学校になるということも、まだ決まってないんですか。

副委員長 議決はされていません。

委員長 できるだけ、多数決は取りたくないんですが。皆さんの合意で。

委員K 意見が出尽くしたところで、委員長決裁しかないんじゃないんですか。

委員長 はい、そういうご意見ですが。私は、子ども中心と言うことも当然考えなくてはいけないと思う。しかし、この学校をどうやって残したいかということもある気がします。通常だったらいろんな方向に行くんだけど、いかにこういう伝統のある学校を残したいかということも考えた時に、教育委員会と地域が一体となってほしいなという思いはあります。また、この学校だけ違う名前になる可能性はありますよということです。先程、議会を通すためと言われたけれど、議会が通らないとどうしようもないですから。

委員E それは、学舎だったら通るけど、学園だったら通らないということを言っているのですか。

委員長 分かりませんけど。前は学舎で通っているの、利賀もつばきも。そこで学園にする意味というか、説明を求められたときに、白川と統一するんだと言う話はたぶん通らないでしょうね。

委員E 統一にこだわる必要はなくて、私も先ほど言いましたけれど。

委員長 説明を求められた時に、どう説明しますか。ということです。

委員E 先程も言いましたけれど、私の意見を言っているのかもしれませんが、アンケートでちゃんと楽しそうだからと言う子どもたちの意見もあってそれを代弁しているわけなんですけど。そういう子どもたちの意見を、学園という意見を述べた人のことを中心に言っているのかもしれませんが。だから思いを述べているだけで。

委員長 分かります。否定するものではないです。

委員E 薄っぺらい考え方ではありません。

委員E もう一度確認しますが、説明としてはどういう説明になりますか。子どもの意見が多かったからは、たぶんごめんなさい、通らないと思います。気持ちは分かります。それは公の場で説明を求められたときに、先程教育長が言ったように、90対10だったら。

委員E じゃあ学舎だったら、どういう意見を述べられるのですか。

委員長 統一感があるってことですね。

委員E それは、白川郷と統一という話でもいいんじゃないですか。

委員長 私は、1対1で議論はしたくないので。ごめんなさい。これをやりだしたらきりがないので。

委員E そういう考え方になりませんか。統一って話が先走っているような気がするんですが。

事務局 南砺市立の義務教育学校であるということをまずは頭においていただきたい。平村と上平村だけの話であれば、全く学園も学舎も関係なく、本当に0から議論できるんですが、今回については、つばき学舎があり、利賀学舎があり、そういう学舎というのが南砺市の義務教育学校の形にある中で、そこであえて学園を選ぶのであれば、それ相応の理由ももちろんありますし、その中で学舎というのであれば自然な流れかなという思いはあります。学舎がだめ、学園がだめとかいうことではないんですが、南砺市立義務教育学校であるということは避けて通ることはできなということは事務局側としてもご理解いただきたいという思いではあります。その中で議会で説明して、議会の議決をいただくという流れになります。

委員長 公立学校だということです。

委員E それって、最初から決まっていたことと、とらえられませんか。

副委員長 アンケートの結果が100対10なら教育委員会の提案は、ご破算にしなければいけないと思っていました。しかし、60対50だったので、できれば賛同願いたいと思っています。

委員E それは教育長の考え方ではないんですか。

副委員長 教育委員会の考えです。

委員E すみません。個人の考えではなくて、PTAとしてはどうなんですか。議論をと言われたので、その議論にそって発言していただかないと、いつまでたっても平行線だと思えますけど。

委員A 個人としてではなくて、PTA会長として意見を言わないと。

委員E 確かにそうですね。

どっちか決めないといけないんですよ。

委員A そうそう。

委員長 はい、決めないといけないです。

委員E そしたらやっぱり、意見の多い方。

委員長 もう一回戻りますが、アンケートはあくまでもアンケートです。この場で議論するとき、それが大前提ではないと前回の時に申し上げたはずです。アンケートでは決めます

と。議事録にも載っていると思うので、それをまずは頭に置いてください。私はどっちを推したいというよりも、きちんと議論をして、納得されにくいかもしれませんが、妥協するところは妥協しなければいけないかなと思います。

委員E 妥協ってどういうことですか。

委員長 合意ですね。妥協ではないです。言葉が間違っていました。

委員E そうしたらお互い妥協じゃないですか。

委員長 これを次回にまわしたら、どういうスケジュールになりますか。

委員A まわしても何が変わるんですか。ここの委員全員で決めるっていうのが基本的なんで、あくまで参考の意見を皆さん持ち寄って、ここでどうですかということを決めるんで。

委員B 私たち代表とか委員は、各地区、PTA、色々な方々の代表で意見を言う立場だと思うんです。その結果をまとめていただくのは委員長、副委員長で、お願いしますと言われたら、私はそれで同意すればいいと思っています。時間を延ばして決めるのではなくて、ここではっきりと委員長、副委員長さんに意見を言っていただいて、私たち委員はそれに納得すれば、この会はこれでいいと思います。意見は出尽くしたので、後は委員長、副委員長さんに決めていただければいいと思いますが、皆さんどうでしょうか。

委員 はい。

委員B では、そういうことでお願いいたします。

委員長 市の考え方、公立の学校であるという考え方、学園、学舎については、子どもたちの意見もあるんですが、50対60という形であるということも含めると、私は統一感がある方がいいと判断します。学舎という方向でいかせていただければありがたいと思っています。最終的に協議会で決めたことなので、各委員の責任ということではありません。いろんなことを考えなくてはいけないということで、行政の方は議会を通さないといけないという考えもありますし、私としては、これからも他にも義務教育学校が出てくる可能性があるのと、その時に統一感をもった地区にしたい。という思いは正直あります。というのが私の意見です。皆様方の意見を聞いたうえでの判断です。ご異論もあると思うのですが、五箇山学舎という形で、南砺市立五箇山学舎という方向で、決定させていただけないでしょうか。

委員E これだけ学園の意見が多かったにも関わらず、学舎っていう考え方なんですね。

委員長 意見は一つの意見です。何度も言います。いろんな考えをここでたたき台にあげて議論しないと、あくまでもこんな意見が多かったから、という話だと議論は進まない。それは一つの考え方、議論であって、全体の議論ではないと思います。よろしでしょうか。

委員 はい。

委員長 はい、ありがとうございます。それでは、もう一度確認します。南砺市立五箇山学舎という形で、五箇山も漢字で、しっかりと書かせる。でよろしいでしょうか。

委員 はい。

委員長 はい、どうもありがとうございました。

次に、その他についてです。

(2) その他について

委員長 委員の交代について、井渕委員より説明をお願いします。

井渕委員 今回でこの委員を降りることとなりました。この会には別の角度で、皆さんに協力したいと思っています。私の代わりの地域・PTA部会長を道端委員にお願いしたら、快く引き受けてもらえました。今後は道端委員中心に部会を進めてください。なお、副部長は、次回の部会で協議をお願いします。私の代わりの委員は、平地域で相談した結果、長田政

哉さんとなりました。平地域の代表として活発な意見を言ってくれるので、よろしくお願いいたします。

委員長 確認です。地域・PTA部会の部長は道端委員でよろしいでしょうかということと、委員は長田政哉さんをお願いするということでよろしいでしょうか。

委員 はい。

委員長 道端委員、引き続きよろしくお願いいたします。

委員長 以上、予定されていた協議は終わりました。次回の日程等について事務局からお願いします。

4 第5回協議会の日程

事務局 今回は2月中旬を予定しています。スケジュールを調整致しまして、後日開催日をご連絡させていただきます。なお場所は上平小学校で19時からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長 だいぶ長くなりましたが、第5回の設置協議会を終了いたします。本日は皆様方から色々なご意見をいただきました。なかなか全員一致というのは難しく、いろいろな観点から決めないといけないということで、少し無理押しのことも言いましたが、私の責任においてということでお許しいただきたいと思います。それでは、事務局にお返しします。

事務局 委員長議事の進行ありがとうございました。

ここで報告があります。先日教育フェスティバルという、南砺市の子どものイベントを開催いたしました。その際、KNBラジオが番組を放送しており、上平小学校の校歌を作詞作曲していただいた高原兄さんと教育長とでいろいろとお話をされ、その中で歌詞を変えるということに関しては、地域の皆さんがそうしたいといわれるなら、それを最優先に進めてください。歌詞を変えることに関しては全く問題ありません。と言われましたことをご報告させていただきます。

閉会にあたりまして、松本副委員長よりご挨拶をいただきます。

5 閉会 副委員長の挨拶

副委員長 今日は、活発な議論をありがとうございました。なんとか皆さんに合意していただき、正直ほっとしています。ただ今日のご意見の中で60対50になったというのは、ありがたかったことなんです。本当に100対10なら通らないと思っていました。先程の意見にあったように、これで3つ揃えばどこかの段階できちんと、南砺の義務教育学校は学舎を用いるということを明記した方がいいのではないか。ということも今日教えていただいたように思います。また、事務局でそれも含めて、今後そういう学校も増えてくる可能性もあるので、きちんと納得いくような形にしていきたいと思います。この後また、具体化を図っていくと思いますが、それぞれのお立場から、いい学校になるようによろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。